

子供たちの学力向上を確実に図る校内研究の充実

～1年間の校内研究を振り返って、次年度へつなぐ～

西部教育局
お役立ち情報
令和5年2月号

3学期は、子供たちにとっては1年間の学習のまとめの時期です。同時に、先生方にとっては1年間の校内研究のまとめの時期でもあります。今年度の取組によって子供にどんな力が付いたのか、成果と課題を把握し、次年度の校内研究の組み立てにつなぎましょう。



4つの視点で今年度の校内研究をチェック!

①「研究のまとめ」の完成がゴールになっていませんか?

せっかく時間と労力をかけて研究のまとめを完成させたのに、あまり活用できていないな。



いつでも手に取って見られるよう、研究の進め方や検証結果、履歴などを図や表などで視覚的にまとめましょう。リーフレット形式も効果的です。

②各種調査やアンケート結果を有効に活用できましたか?

保健室の利用状況や生活実態調査などは、学力向上にどのように活用されているのかしら。



テストの得点だけでなく、各種調査のクロス集計、アンケート等を活用しながら子供の実態を的確に把握しましょう。

③子供の変容について、具体の姿が浮かびますか?

教師が何をしたかについては語るができるけど、子供の変容はどうだったかな。



子供が何に困っていて何ができるようになったのか、成果指標に基づいて客観的に見取りましょう。

④取組の成果を、全職員で共有できていますか?

今年度の研究の取組の成果について、全員が同じことを言えるだろうか。

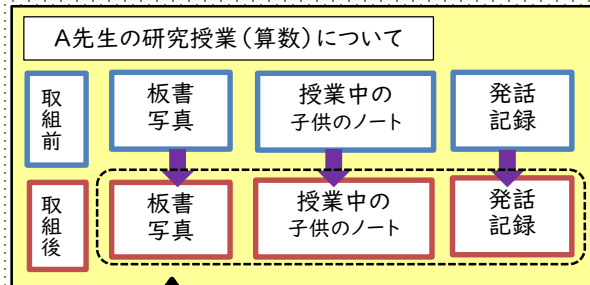


今年度の取組について、何年生でも、どの教科でも活かせることは何か、全職員で確認しましょう。

他校の取組をチェック!

取組①

本校の「研究のまとめ」は、研究授業の記録を工夫して提示しています。取組前と取組後の板書、ノート、発話記録などを上下に並べ、比較することで、子供の変容を見取りやすくしています。



何がどのように変わったのかを具体的に見取ることができる。

取組②

本校では、年度当初に設定した成果指標・目標値等に照らして、取組そのものの効果についても検証しています。指標を設定することで、目的が具体化、明確化されるので、子供の変容や取組の成果を全職員で実感することができます。



なるほど、年度当初に成果指標・目標値を設定しておく、より客観的な見取りができるんですね。今年度中に成果指標に使えるようなデータをそろえておかななくては…。

取組の反省を次年度につなぐ!

研究の方向性を前年度に定め、スムーズに新年度のスタートを切る!

3学期のうちに、その年に実施した学校評価や学力調査・アンケート等を生かした「現状把握」や「分析・診断」、「課題づくり」までを実施し、4月のスタートは新たなメンバーでの「組織づくり」からはじめます。

こうしたサイクルをつくることで、4月当初は子供と触れ合う時間を多くもつことができ、早い時期に「実践」に移ることもできるというメリットがあります。

